

1 令和4年度の成果と課題

国語科においては、活用で目標値を下回る学年があった。中でも特に、資料を読み取って自分の考えを書いたり、理由を明確にして書いたりすることに課題が見られた。そのため日常の授業の中で、書く活動を意識的に取り入れ、説明文や物語文を扱う際には、なぜそう考えたのか、資料のどの部分に書いてあるのかを確認しながら進めていく必要があると考える。また、それぞれの意見や考えを聞き合う活動を通して、まずは自分の考えをもち、互いに伝え合う力や学びを深める力を培う必要があると考える。

2 今年度の調査結果の分析

「第4学年」知識及び技能の観点では、「漢字を書くこと」、「主語と述語の関係の理解」、「ローマ字表記を読むこと」、「国語辞典の使い方の理解」に関して目標値を下回っている。思考力・判断力・表現力等の観点では、「叙述を基に登場人物の気持ちを捉えること」、「登場人物の気持ちの変化について具体的に想像すること」、「情報と情報との関係を理解して中心となる語や文を見付けて要約すること」、「情報と情報との関係を理解し、筆者の考えとそれを支える事例との関係を明確にして書くこと」に関して目標値を下回っている。また、文章を書く問題では、どの項目に関して目標値を下回っている。

「第5学年」知識及び技能の観点では、「漢字の読み書き」、「修飾語についての理解」について、目標値を下回っている。思考力・判断力・表現力等の観点では、「意見の相違点に着目して考えをまとめること」、「叙述を基に段落相互の関係を捉えること」、「情報と情報との関係を理解して中心となる語や文を見付けて要約すること」について目標値を下回っている。文章を書く問題では、どの項目に関して目標値を下回っている。

「第6学年」知識及び技能の観点では、目標値を10ポイント以上上回った。思考力・判断力・表現力等の観点では、「登場人物の心情について描写を基に捉えること」、「情報と情報との関係を理解して文章の情報を整理すること」、「資料から読み取った事実を書くこと」に関して目標値を下回っている。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

1 話の内容を正確に聞き取る力を養う。

低:「話の聞き方」等を掲示し、最後まで話が聞けるように意識させる。

中:話の聞き方を繰り返し指導し、聞く姿勢の習慣付けを図る。

高:話の聞き方の基本姿勢、効果的なメモの取り方、目的意識をもって話を聞く姿勢について指導する。

2 書く力を高めるために文章の構成力を身に付けさせる。

全:各学年とも、書く学習の際に適宜「書くって楽しいね」を活用する。

低:文章を読む時に文の構成を意識して読むようにさせ、絵日記や観察記録文などを書く作業を定期的、計画的に設定する。

中:日常的に文章を書く時間を取り入れ、段落を意識させたり、自分の意見とその理由を明確にして書くことを意識させたりして、書くことに慣れさせる。文章の中心となる言葉や文を意識させたりする。

高:文章を読むときに文の構成に気を付けながら読ませる。主語述語を用いた短作文を書かせ、文の構成に慣れ親しませる。常体と敬体の使い方に慣れるようにする。

3 言葉の力を高めるために語彙力を豊かにする。

全:国語の教科書に掲載されている「言葉のたから箱」を活用する。漢字学習は、学校での新出漢字の学習に加え、既習の漢字を振り返る時間を定期的に取り。また、週1回以上朝読書に取り組み、語彙力向上を図る。

低:授業の中で、視写や簡単な文づくりをして正しい言葉の使い方や意味等を理解させる。

中:国語辞典や漢字辞典などを活用し意味調べを行う。国語辞典は第3学年で使い方を学ぶ単元の学習後も、説明文の導入で意味調べを行うなどして、継続して使用する機会を授業内で設け、定着を図る。

高:音読や読書、辞書を使って意味を調べる時間を増やす。また、まとめ新聞作りや感想文など、他者を意識して書くことできる場を設定し、自分の考えや意見をアウトプットする習慣を身に付けさせる。

1 令和4年度の成果と課題

昨年度よりも全体的に平均点が上昇傾向にあり、高学年においては、「知識・技能」と「主体的に学習に取り組む態度」で全国平均を上回った。児童の多くが、タブレット端末を活用して個々の疑問をすぐに調べるという学習習慣が身に付いた成果と考える。

また、タブレット端末の導入によって、一つの資料だけではなく、複数の資料から読み取ろうとする習慣を身に付けることができている。しかし、どの学年も目的に適した資料選びの仕方や、その資料から何を読み取り、どのように課題に結び付けたりするか等、「活用能力」に課題があると考えられる。

2 今年度の調査結果の分析

「4年生」

基礎・活用ともに、正答率の平均が目標値を下回り、特に基礎で目標値を大きく下回った。内容別にみると、「農家の仕事」、「安全な暮らしー火事」、「安全な暮らしー事故や事件」、「くらしの移り変わり」等、領域に関係なく基礎的な問題における誤答が目立った。

「5年生」

基礎は正答率の平均が目標値より低いですが、活用は正答率の平均が目標値を上回った。内容別にみると、「都道府県の様子」の「地形の様子と関連づけて考え表現する」と「くらしをささえる水」の「ダムが建設されることについての理解」で目標値を下回ったものの、「ごみのしよりと利用」、「先人の働き」「特色のある地域の様子」では、目標値を上回った。

「6年生」

基礎・活用ともに正答率の平均が目標値を上回っている。内容別でみると「世界の中の国土」や「自動車を作る工場」、「日本の工場生産」、「自然環境と国民生活」等で目標値を上回っているものの、「日本の食料生産」では目標値を下回っている。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

1 課題に適した資料やグラフを選択し的確に読み取らせ、活用する能力を身に付ける。

中: 副教材や地図帳等を読み取る際に、視点を与え目的に合った資料やグラフが何かを考えさせたり、選んだ資料やグラフを適切に読み取らせたりする活動を行う。タブレット端末での学習によって、場所と方位をすぐにその場で確認させたり、地形の様子などを読み取らせたりして地図帳に触れ、活用する機会を増やす。

高: 手軽な地図帳や副教材の活用とともに、複数の資料から内容や目的、背景等を読み取る活動を多く取り入れる。特にタブレット端末を効果的に活用し、必要な資料を取り出したり、情報について考えたり話し合ったりする活動を増やし、資料活用の体験を増やす。場所や細かい情報が分からないときは地図帳で確認したり、副教材を活用したりする習慣も今まで通り大事にしたい。

2 「社会的な事象についての知識・理解」を深める。

全: 地図記号や都道府県、日本の主な地形の名称と位置についての検定を学年に応じて行うことで、基礎的な知識・理解の定着を図る。また、教科書だけではなく、近隣の公共施設を利用したり、タブレット端末を活用したりする。さらに、社会科の学習をより身近なものとの認識につなげるため、自分たちの生活と関連付けたり、学んだ言葉や仕組みをまとめたりする活動を通して、知識・理解の定着を図るように指導する。

1 令和4年度の成果と課題

教科の目標値を上回る学年が前年度よりも増えた。また、学年によっては、区内平均を上回ることができた。習熟度別学習を実施し、個人の習熟に合ったクラスで学習が進められていることの結果であると考え。一方で、単学級では2展開しかできない学年もあり、算数に苦手意識をもつ児童への指導の難しさも感じる。既習学習との関連性に気付かせながら学習を積み上げていく必要がある。また、「主体的に学習に取り組む態度」は、学年が上がるにつれて低くなる傾向があり、興味・関心を引き出せるような授業を工夫していきたい。

2 今年度の調査結果の分析

「4年生」

基礎・活用ともに正答率の平均が目標値を上回っている。内容別にみると、「時こくと時間」「表とぼうグラフ」「かけ算」では目標値を大きく上回り、「たし算・ひき算」では、目標値を大きく下回った。また、観点別にみると、「思考・判断・表現」についての問題が、目標値を下回る結果が見られた。

「5年生」

活用の正答率の平均が目標値と同程度で、特に基礎で目標値を下回った。内容別にみると、「億と兆・がい数の表し方」、「分数」、「角の大きさ」で大きく下回り、「面積」「変わり方調べ」では、目標値を上回った。また、観点別にみると、「主体的に学習に取り組む態度」についても、目標値を下回る結果が見られた。

「6年生」

基礎・活用ともに正答率の平均が目標値を上回っている。内容別にみると、「面積」や「立体と体積」「多角形と円・合同」等で目標値を大きく上回っており、「整数のなかま分け」や「小数の計算」では目標値を下回っている。観点別では、「知識・思考・態度」のどの項目も、目標値を上回る結果が見られた。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

1 数の仕組みや概念の理解を高める

低：ブロックなどを用いた操作等を多く取り入れ、数の概念を身に付けられるようにする。

10進位取り記数法を理解させる。

中：小数や分数などは、紙テープや数直線などで視覚化し、具体的なイメージが身に付くようにする。

高：既習事項の復習を繰り返し行い、基礎・基本の定着を図る。また、一般化することで、小数・分数の場合にも数の仕組みを活用できることを理解させる。

2 加法・減法・乗法などの計算の定着を図る

全学年：単元の終わりには、「タブレットドリル」に取り組みせ、計算力の定着を図る。

低：ブロックを使って具体的に操作して、計算の仕方を身に付けさせる。繰り返し練習させることで習熟を図る。

中・高：ドリルやプリントを通して繰り返し練習する機会を多く設定する。

3 量と測定の単位に対する量感を実感させる

低：具体物などの日常的に目にする量から、もともとなる量のイメージをつかみ、理解・習熟を図る。

中：身近なものを計測する活動を行い、量感を養うことができるようにする。単位換算を繰り返し練習させることで、定着を図る。

高：量や数の意味を考え、必要な数量を求めるための条件や要素に注目させ、定着につなげていく。

4 数量関係や図形の理解の定着を図る

低：定規を使い、線を引く練習をし、慣れさせる。また、色板などを用いて、形についての理解を深める。

中：簡単な数量を数直線で表したり具体物を用いて比較させたりする。

図形の性質を調べ、構成要素と比較させて実感につなげさせる。特徴を考えながら作図させる。

コンパスや分度器について指導し、作図の仕方や使い方を身に付けることができる。

高：問題文を正確に読み取り、数量関係を式・図・数直線を用いて考える機会を多く設定する。

1 令和4年度の成果と課題

「基礎」は目標値を下回っていたので、そこを課題として捉え、各単元の「基礎的事項」を中心に学習計画を立て直した。また、「活用」が上回っていたので、実験や観察のねらいをしっかりとおさえ、観察のための道具や実験器具の正しい使い方を確実に身に付けさせた。そのことで、自分たちが観察・実験をしようとする課題を見極め、正しい知識を得られ、さらに理科に対する興味・関心につながった。事実や資料から関連付けて考え、話し合いを行うことで、結果を大事にするだけでなく、考察していく過程を丁寧に取り組むことができた。このことにより、実験・観察する態度により影響をもたらした。

2 今年度の調査結果の分析

「4年生」

基礎や領域別の「生命・地球」では目標値と大きな差はなかったが、その活用や「物質・エネルギー」の領域別評価に課題が見られた。特に内容別でみると「こん中の育ち方」や「電気の通り道」では誤答が多く、中でも「電気の通り道」の実験から問題点を推測するところでは、誤答だけでなく無解答も目立ち、理解ができていないことがわかる。

「5年生」

基礎・活用ともに、正答率の平均が目標値より低く、特に活用で目標値を大きく下回った。内容別にみると、「自然の中の水」、「動物のからだのつくりと運動」、「月と星」等、領域に関係なく基礎的な問題における誤答が目立った。

「6年生」

基礎・活用ともに正答率の平均が目標値を下回っている。内容別でみると「植物の発芽と成長」や「魚のたんじょう」等で目標値を上回っているものの、「植物の花のつくりと実」や「流れる水のはたらき」では目標値を大きく下回っている。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

1 身近なものに関連付けて、理解を深める。

中: 課題になる教材は身近にあるが、植物や生き物にしても、日常の観察から理解を深めていけるので、学習する目、学習の日常化を図る。

高: 然の現象、天体等においても、単元に合わせるだけでなく、日常生活の中から科学的な見方、思考を養えるような場面を捉えて、より身近な課題として興味・関心を高める。

2 一人一人が体感、体験できる機会を増やす。

中: 学習内容は教科書からだけではなかなか身に付いていかない。生き物の観察や飼育、栽培などの直接経験の機会を充実させ、実際に見たり触れたりすること、実感を伴った実験や観察を効果的に取り入れ、理解へとつなげていく。ここでの「効果的」とは、児童の興味・関心が高まったところで、自分から「調べたい。」「実験したい。」という意欲を大事にし、活動につなげることである。

高: なるべく実物や実際の映像を用意したり、グループの少人数化など実験・観察の環境を整えたりすることで、身をもって学ぶ機会を多く設定する。また、正しい観察の観点や実験の方法等をしっかりと身に付けることで、「問題→予想・仮説→実験・観察→結果→考察」の過程がより明確になり、自分の考えをもち、確かめ、自力解決する力を育成していくことにつながる。

1 令和4年度の成果と課題

(1) 成果

- ・低学年の段階から継続的な指導を行うことで、表現学習や鑑賞学習の素地を身に付けさせた。
- ・ICT 機器を活用することで、視覚的に分かりやすく指導することができたり、児童が意欲的に取り組むことができたりした。

(2) 課題

- ・児童は意欲的に取り組んでいるが、曲想を生かした表現にまで至らないことが多く、演奏の完成度を高める必要がある。また、楽器演奏の習熟の差が大きい。

2 授業改善のポイント及び改善策

1 基礎的・基本的な楽器の奏法や発声の仕方を身に付けさせる。正確に読譜する力を定着させる。

- (1) リコーダーや鍵盤ハーモニカの導入学習、声の出し方、発声の指導を丁寧に行い、それらを継続して指導していく。表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、豊かな音楽表現につなげられるようにする。低学年の段階から継続的に指導を行い、積み重ねの学習を大切にしていく。
- (2) 音符やリズム、階名を正確に理解できるよう、常時活動等を通して、読譜の練習を日常的に行う。
- (3) 個別学習の時間の中で、児童同士の教え合いの場を積極的につくる。また、児童自身が、自分の演奏を客観的に振り返る機会を設ける。

2 拍感やリズム感を身に付け、表現活動の充実を目指す。

- (1) 手拍子、身体表現、打楽器等によるリズム活動を通し、楽しみながら、拍を感じ取ることできる力を育成する。
- (2) 教師の演奏を模倣する学習を多く取り入れ、拍の流れを正確に感じ取ることができるようにする。

3 音楽を味わって聴き、感じたことや気付いたことを表現するための語彙を増やす取り組みを行う。

- (1) 鑑賞学習では、形容詞表を用いて、自分の思いを自分の言葉で表現できることを目指す。書く活動を定期的に取り入れ、低学年の段階から「書くこと」に慣れさせる。
- (2) 共通事項を軸にして、聴く視点を明確に示すことで、楽曲の音楽的特徴と関わらせて鑑賞する力を身に付けさせる。自分の思いを言語化することが難しい場合には、いくつか例を提示し、自分の考えに近いものを選ばせるなど、すべての児童がねらいをもって鑑賞学習に取り組めるようにする。

4 学習成果を発表する場を設けることで、児童の達成感や学習意欲を向上させる。

- (1) 音楽朝会や音楽会を実施し、日頃の学習成果を発表する機会を設ける。一つの作品をつくりあげる喜びや難しさ、友達と協働して演奏する楽しさを感じ、その後の学習への動機付けとなるよう指導する。また、児童同士が互いの演奏や表現のよさを認め合える雰囲気づくりを大切に

1 令和4年度の成果と課題

(1) 成果

- ・児童の活動を価値付ける声掛けをすることで、様々なことを試し、納得いくまで取り組む児童が増えた。
- ・ICT 機器を活用することで、視覚的に分かりやすく指導することができたり、児童が意欲的に取り組むことができたりした。

(2) 課題

- ・児童は意欲的に取り組んでいるが、発想の広がりや作品の完成度を伸ばす必要がある。

2 授業改善のポイント及び改善策

1 知識・技能

- (1) 児童の言葉を板書し共有することで、形や色に着目させる。
- (2) 表したいことに合わせ、材料や用具を選べるようにする。
- (3) 用具の正しい使い方を毎時間確認し、必要に応じて使えるようにする。

2 思考・判断・表現

- (1) 様々な材料や用具と関わることで、特徴を生かし、様々な見方、考え方をもてるようにする。
- (2) 自分のイメージや思いを広げ深められるよう、技法や参考作品の提示を行う。ワークシートを活用し、考える観点を伝える。
- (3) 表したいことに合わせ、材料や道具を選べるようにする。
- (4) ICT を活用し、調べたり、作品を記録・共有したりすることで、見方や考え方を深めるきっかけとする。

3 主体的に取り組む態度

- (1) 児童の実態に合った題材を設定する。
- (2) 児童の考えを肯定的に受け止め、試行錯誤している様子や作品の工夫などを称賛し、主体的に活動できるようにする。
- (3) 児童同士が互いの発想や工夫のよさや違いを認め合える雰囲気づくりを大切にする。

1 令和4年度の成果と課題

- ・ 運動の工夫ができない児童がいる。
- ・ きまりを守ったり、勝敗を素直に受け入れたりすることが苦手な児童がいる。
- ・ ボールを投げる経験が昨年度より増えた。
- ・ 走力が昨年度より上がった。

2 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

○自分の体を支えるための運動を取り入れ、運動が苦手な児童の指導を工夫する。

低： 器械・器具を使っての運動遊びで、多様な運動感覚を身に付けさせる。

中： 平均台・肋木等の多様な動きを取り入れた運動を取り入れる。

高： 自分の体重を支えるだけのバランスをつけさせるため、力試しの運動、体づくり運動を適宜取り入れる。

○運動の工夫に努める。

低： 工夫の仕方を例示し、楽しさを実感させながら、運動させる。また、授業の時間のみならず、休み時間などにも積極的に取り組む。

中： 体の動かし方やコツを考えさせる授業を行う。また、授業内で振り返りカードを使って学習を振り返らせ、目的をもち授業に取り組めるようにする。また、その都度、評価と反省を行い次の授業へ繋げていく。

高： 授業の中では個別の課題の設定や評価を行わせる。また、学習カードを活用したり、児童同士の教え合いの場を設定したりする。

○ゲームなどで思考力・判断力などを身に付け、ボールの操作などの技能の習得を目指す。

低： ① 多様なゲームを授業内で仲良く行わせる。

② 多様な動きを授業で経験させる。

中： ① ルールを工夫、作戦を選んでチーム内に伝える

② ゲームに必要な技能を高める。時間を計画的に行う。

高： ① 誰でも楽しめるルールの工夫、チームの特徴に応じた作戦を選ぶ。チームの考えを発表する。

② ゲームに生かす、技能を高めるチームで考えた練習タイムを設定する。

1 令和4年度の成果と課題

- ・コロナの影響により、更に生活経験の差が見られる。裁縫道具やミシンの扱い方、調理器具の使い方など道具についての知識や、作品や調理の完成までの見通しの立て方に個人差が大きい。
- ・コロナの影響で、調理実習が中止されていたが今年度は実施することができている。ところが、経験不足もあり個々に差が見られる。
- ・児童の調理、裁縫ともに興味関心は高く、熱心に取り組む児童が多く見られる。その反面、活動以外の衣食住に関する学習意欲は低い。

2 授業改善のポイント及び改善策

1. 用具の使い方の習得を目指す。
 - (1) 実習を通して、ミシンや調理器具の基本的な扱い方を十分把握させ、体験の機会を増やす。友達同士で教え合う場を設ける。
 - (2) 調理や製作等の手順や根拠について、考えたり、実践したりする。
2. 他の教科等と関連付けて、指導に工夫する。
 - (1) 児童の日常生活と関連付けながら、自分の生活における課題を解決するために、言葉や図表などを用いて、考えたり、説明したりする学習活動を行う。社会科や理科の学習内容とも関連づけて考えさせ、興味、関心を高める。

1 令和4年度の成果と課題

- ・日常生活において、虫や小動物等と関わる経験が少ない。
- ・じっくりと観察をすることが難しい児童が多い。
- ・活動はするが、観察カードや記録カードにうまくまとめられない児童が多い。
- ・昨年度までできなかった活動に広がりをもたせる経験を取り入れていく。

2 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

- ・五感を使った体験活動を取り入れる。
- ・動植物の飼育を取り入れ、成長や変化に気付かせる。
- ・観察する視点を明確にし、どの部分をよく見ればよいかをはっきり示す。また、タブレット等を活用し、写真等で記録を残すことで、成長や変化に気づかせる。
- ・観察カードに記録をする際は、全体をかくのではなく、視点を明確にし、「見付ける」「比べる」「例える」などの表現を広げる。
- ・活動の楽しさを味わわせ、言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法で表現し、考え、気づきを関連付けさせる。
- ・コロナ渦でできなかったふれあい活動を取り入れ、学校や地域の人々とのかかわりを取り入れ、喜びを見出していく。

1 令和4年度の成果と課題

- ・ 外国語を話す自信がもてないことから、積極的に発言をしない。友達同士での会話場面では、互いに黙ってしまうこともある。
- ・ 全体的に聞き取りに関する内容に課題がある。日常会話の内容を理解できない。ALT の話していることが理解できない場面もある。
- ・ 英作文において、単語力が乏しいために書く力がなく、書こうとしない児童がいる。
- ・ アルファベットの習得はできているので、基礎問題はよくできている。(6年生)

2 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

- ・ 外国語で身に付けたコミュニケーションの方法を日常の授業の中でも生かす。
- ・ 理解できないから聞かないのではなく、理解できなくても繰り返し聞いて、慣れさせる。
- ・ ALTが話した内容を児童が理解しているかを確認して、必要に応じて担任が日本語で補佐する。
- ・ ALTの発音を何度もリピートさせて、ネイティブな発音に慣れさせる。
- ・ 児童が使う英語が他者に通用するという達成感を味わえる学習展開にする。
- ・ 児童が外国語活動に対する苦手意識を無くし、ローマ字やアルファベットを習得できるよう、掲示物等で外国語に触れる場面を増やしたり、ALTと触れ合う時間を増やしていく。
- ・ 外国語担当がALTと連携を図り、外国語教材の充実を図る。
- ・ 担任が毎時間、ALTと授業の計画について打ち合わせをする。その際に、児童の実態に応じた学習活動にする。
- ・ 授業の最後に振り返りを行い、1時間の中で何ができるようになったのか、学習の成果を残せるようにする。
- ・ 英語カフェを利用して、児童が気軽に英語で話せる場や機会を推進する。